

# 令和4年度 社会福祉法人愛燦会 事業報告

## 【1. はじめに】

令和4年度は法人内の複数施設において新型コロナウイルスの感染者が確認される中、利用者・職員の安全を確保するため、感染拡大防止に最大限の努力を払ってきました。約3年に及ぶコロナ禍での経験を基に水際対策の徹底、マニュアルの作成、関係機関との連携、法人内でのノウハウの共有等を進めることで、職員の感染対策への意識が醸成され、安全と効率のバランスを考慮しながら運営に努めたことが組織力の向上にもつながりました。

新型コロナウイルスを中心とした感染対策BCP(事業継続計画)を整備するとともに、発生すれば甚大な被害が予想される南海トラフ地震や気候変動による水害等に備え、災害対策BCPについての準備も進めてきました。河川が多く、海抜ゼロメートル地帯が広がる海部地域を拠点とする社会福祉法人として、地域社会における責務を果たすために引き続き災害対策に取り組んでいきます。

施設運営においては、前年度の理事長交代を機に施設長を始めとした管理職層の若返りを図り、新たな視点の活用により組織の適切な新陳代謝を促して、次世代を見据えた法人の体制作りを進めてきました。

また、令和4年度の事業計画にて掲げた新規事業の推進においては、高齢化社会の急速な進行により重要性が高まっている在宅福祉事業強化の一環として、新たなコンセプトの在宅サービス提供に向けた取組みを地域とともに推進してきました。複雑化する地域の福祉医療ニーズへ円滑に対応するため、長期に亘って蓄積してきた福祉分野における知見を活用しながら、医療分野へ事業領域拡大するためのクリニック開設の準備を行いました。

## 【2. 令和4年度の重点取組み内容】

### (1) 世代交代の推進と運営向上

法人全体での職員の高齢化も進む中で前年度の理事長交代を契機として、蓄積された知識・経験や地域社会との繋がりを継承しながら組織全体の適切な新陳代謝を促すため、施設長を始めとした管理職層の若返りを推進しました。その中で、新たな視点を取り入れることにより、今までに着手されていなかった施設の改善点を洗い出し、個々に対応していくことで施設の運営向上に結びました。

## (2) 感染症対策の推進

法人内の複数施設において新型コロナウイルスの感染者が確認される中、利用者および職員の安全を確保するため、水際対策の徹底や感染症対策マニュアルの整備、関係機関との連携等により感染拡大防止に努めてきました。それ以外にも、職員間での情報共有の在り方や設備・物品の効率的な利用の見直し、安全と効率のバランスを考慮した運営等、有事への対策を通じて職員の経験値を積み上げることで組織力の向上につなげました。

## (3) 人材育成の推進および処遇の改善

法人の人材育成方針に応じた階層別研修の充実化に加え、外部研修や管理職育成を目的とした定期人事異動等により、地域福祉ニーズへ迅速に対応できる人材育成を推進した他、管理職主導による専門職会議の開催や内部監査への参加等、多様な手法を用いた管理職の育成に努めました。また、定年年齢の延長や一部手当の改正を含めた処遇の改善等により、長期安定した職場環境の確保と同時に職員が長年培ってきた知識や経験をサービス品質の向上につなげられる体制の構築に努めました。

## (4) 新規事業の推進

既存施設の老朽化および多様化する福祉ニーズへ対応するため、長寿の里・津島の拡張事業として新施設の開設準備を進めました。高齢化社会の急速な進行により在宅福祉事業の重要性が高まる中、リハビリ型の新たなデイサービス開設に加えて、別場所で行っていた在宅サービスを一カ所に集約してワンストップでのサービス提供が可能な在宅総合センター、また福祉サービスの更なる充実および地域の医療ニーズに対応するためのクリニックの開設準備を推進しました。

### 【3. 収支および財産の状況】

#### (1) 資金収支の推移

(単位：千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業活動収入	3,439,944	3,506,324	3,609,339
事業活動支出	2,987,799	3,107,885	3,253,127
うち人件費支出	2,329,689	2,463,094	2,510,984
事業活動資金収支差額	452,145	398,439	356,211
施設整備等収入	43,026	13,541	25,062
施設整備等支出	1,159,616	247,081	504,963
その他活動収入	9,414	12,556	10,532
その他活動支出	72,243	72,962	68,801
当期資金収支差額合計	▲ 727,274	104,493	▲ 181,958

#### (2) 資産・負債の推移

(単位：千円)

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
流動資産	1,981,251	2,086,064	1,917,210
固定資産	5,566,148	5,446,574	5,585,277
資産合計	7,547,399	7,532,638	7,502,487
流動負債	469,473	469,025	695,546
固定負債	984,427	865,828	751,376
負債合計	1,453,900	1,334,853	1,447,922
純資産	6,093,499	6,197,784	6,054,565

### 【4. 今後対処すべき課題】

#### (1) 強固で機動的な組織体制の構築

事業環境が複雑化して法人内外での課題が山積する中で、経営基盤をより強固なものとするのが課題となります。各種課題に迅速に対応できるよう、法人と施設が一体となって意思決定のスピードを上げる他、職員個々が有する強みを活用出来る組織体制を構築する必要があります。それと併せて、事業環境の変化や自然災害等の業務継続リスクに対して、適切かつ迅速に対応できる組織管理体制を構築する必要があります。

(2) 各種システムの見直し

生産年齢人口の減少に伴って生産性向上が必要な社会環境の中で、現在導入中のシステムにおける導入範囲の拡大や運用方法の改善に加えて、事務処理機能の統合化による効果的かつ効率的な運用を目的とした新システムの導入についても検討していく必要があります。

(3) 職員の総合的な資質の向上

経営基盤をより強固なものとするために、施設運営の質向上に寄与する人材の育成が喫緊の課題となっております。法人の人材育成方針に対応した階層別研修の充実化や業務プロジェクトおよび各種会議体等の活用による職員の経験値の積み上げ、それにつながる動機付けを行っていく必要があります。それに加えて、外部人材の中途採用も活用しながら、管理職層の充実化を図り、総合的な資質の向上を促すことが出来る環境を作る必要があります。

(4) 多様な福祉医療ニーズへの対応

多様化する地域の福祉医療ニーズに応えるためにも、長寿の里・津島の拡張事業として在宅総合センターおよびクリニックが開設となります。法人初となるリハビリデイサービスおよびクリニックの早期安定化はもちろんのこと、同一建物に入る訪問サービスを始めとした他在宅サービスや既存施設との有機的な融合を図り、地域に対するワンストップサービス拠点として確立することが課題であります。そのためにも、各事業所間の情報連携をスムーズなものとして、相互補完が出来る体制の構築が必要となります。